

第2回 第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会 議事録

1. 日 時 令和3年12月14日(火) 10:00～12:00

2. 場 所 リモート及び加賀市役所別館305会議室

3. 出席者

委 員	5名
(委員長)	坂 本 英 之
(委 員)	佐 藤 留 美
	田 畑 智 日
	辻 寛 子
	山田 真名美
オブザーバー	3名
	稲 田 純 一
	餘 久 保 陽
	平 田 浩 一 (代理 田中 進一郎)
事務局	5名
	加賀市建設部都市計画課

4. 次 第

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 議事
 - ・見直しの背景及び現況と課題
 - ・ガーデンの再定義
 - ・テーマと基本方針の見直し
4. その他
 - ・今後の予定
5. 建設部長あいさつ
6. 閉 会

5. 傍聴者 なし

6. 議事内容

◆事務局

只今より、第2回第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会を開会いたします。

本日は、委員総数5名全員にご出席いただき、「第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会要綱」第5条第2項の会議成立要件を満たしていることをご報告いたします。

開会にあたりまして、加賀市長 宮元 陸がご挨拶申し上げます。

◆宮元市長

皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

第1次ガーデンシティ構想推進プランを振り返りますと、市民や来訪者にガーデンシティの風景を実感していただけないと意味がないと考える中、計画は良いが実態が伴っていないという状況だと思っております。市内では多くの方々に花の育成活動をしていただいておりますが、これはランドスケープに彩を添えるアクセサリ的な活動であり、根幹の部分については、十分でないと考えております。

ガーデンシティ構想を立ち上げたのは、30年前にシンガポールへ行った時に、ボタニックガーデンへ訪れたのがきっかけです。シンガポールでは、環境そのものを変えて外資や観光客を招き入れる政策が見事に的中し、国の繁栄につながっている実績があり、加賀市も観光地なので、ガーデンシティ構想を生かせないかと考えておりました。

現在、加賀市ではデジタル化、スマートシティ化を進めている中で、国のスーパーシティ構想の中で提案している「e-加賀市民」制度というものがあります。エストニアのeレジデンスを見本にし、電子市民プログラムを推進していますが、関係人口を増やす政策として、マイナンバーと紐づけすることで、市民と同様のサービスを受けられる制度です。関係人口を増やすためには、環境整備が必要不可欠と考えておりますので、これらも踏まえて、本構想を構想で終わらせないためにも、皆さんのお知恵をお借しくださいますよう、よろしくお願いします。

◆事務局

それでは、検討委員会要項に基づきまして、議事進行を坂本委員長にお願いいたします。

◆坂本委員長

前は、たくさんのご意見をいただきましたが、時間切れとなり消化不良に終わってしまったと思います。今回は時間の許す限り、皆さんのご意見を頂戴しながら、しっかりと議論をしていきたいと思います。

議事1 見直しの背景及び現状と課題

◆坂本委員長

議事1「見直しの背景及び現状と課題」について事務局より説明をお願いいたします。

◆事務局

(説明)

◆坂本委員長

ご質問、ご意見はございませんか。

◆田畑委員

資料２ページのコロナウイルス感染拡大による、全国的な公園緑地の需要の高まりに関するアンケート調査について、こういった経緯でこの調査をすることになったのかお伺いします。

◆事務局

コロナ禍の中、一般的に感染リスクの少ない屋外での活動が注目され、屋外活動における環境として、緑のある環境が良いという考えが広まっている背景があります。また、室内で過ごす時間も多くなっており、室内緑化の需要も高まっているということから、この調査結果を取り入れることといたしました。

◆田畑委員

ご説明いただいた背景を踏まえながら、第２次プランを検討したいと思います。

◆佐藤委員

第１次プランの基本方針４、５のヒアリング結果や課題の中で、担い手が不足しているとありますが、担い手が誰なのか、もう少し深掘りした方がよいと思います。担い手と言っても、まちのステークホルダーの各主体によって役割が異なりますので、子育て世代、商店街など、各ステークホルダーのニーズにあった計画が必要だと思います。

◆事務局

アクションプランの中で、きめ細かくニーズに応じた計画を考えて参ります。

◆佐藤委員

各主体がどんな課題をかかえているのかを掘り下げておくと、その後のアクションプランにも上手く繋がっていくと思います。

加賀市には既存の素晴らしいものと、そこで活動している方がたくさんいると思いますので、既存の財産の掘り起こしを、市民と一緒にすることが重要です。その市民参画の中で、ガーデンシティの源になる既存の資源を見出し、それらをどのように繋げるかを考える場がないことは課題だと思います。

これまでの方策だとそれが点的な活動で終わってしまうので、それを繋げ、見える化することが必要です。また、見える化について行政が一方的に提示しても、受け取る側はイメージがわからないので、活動する方々と一緒に話し合えるような連携体制をつくる必要があります。そのプロセスで市民参画を進めていく必要がありますが、ここで言う市民とは、一般市民に加え、企業の方々や行政の方々を含んだ全員のことであり、この全員で一緒にやっているとよいと思います。

◆坂本委員長

今後の展開として、１１ページにある担い手の潜在的な可能性や課題をさらに掘り起こしていくことのほか、様々な価値ある資源を線として繋げていくことで、価値の拡大を図ることは重要だと考えますので、今後の展開に期待したいことだと思います。

◆辻委員

ガーデンシティ構想という言葉は、どれくらいの市民が認識されているのでしょうか。みんなが認識して進めていこうという気持ちをつくる必要があります、自分たちのまちのことをもっと考

える空気を作らなければいけないと思います。ガーデナーを何人か募って、みんなで一緒になってガーデンシティという言葉を広げるために、市民の一人一人にわかってもらう行動を起こすことが重要だと思います。

◆事務局

いろんな団体にヒアリングをして、ガーデンシティ構想自体を知らなかったという方が多くいたことがわかりました。知ってもらうことで進めてくれる方が出てくるとと思いますので、第2次プランでは、プロモーションの仕方も気をつけながら進めていきたいと思っています。

◆山田委員

7ページの「暮らしを楽しむみどりとみんなで広げるみどり」に関して、みどりに関する話し合いの場がないというのは大きな問題だと思います。関心のある人たちで集まる場がないことは課題ですが、関心のない人たちを別のきっかけで巻き込んでいくためにも話し合いの場は必要だと思います。話し合いの場がないと、課題が解決できないだけでなく仲間意識も生まれないので、活動が孤立してしまいます。話し合いの場があることで、趣味でやっていたことがいつの間にか使命に変わり、このまちを残していきたい、このみどりを使って何かをしたいという気持ちに変わっていくと思います。

沖縄などで始まっている地域円卓会議では、それぞれが自分の課題を持ち寄り、様々なステークホルダーが集まり話し合うことで、地域の課題や自分が置かれている孤立感を共有しています。みどりに関しても、関わっている人だけではなく、様々なステークホルダーを集め、人々がみどりに対してどう感じているのか、周りの人たちがどんな活動をしているのかを知る機会が必要だと思います。話し合いが行われないと、担い手も生まれなければ、人々が課題を自分ごととして考えることも難しいと思います。

◆坂本委員長

人のネットワークや人々が集えるプラットフォームが必要ということです。

議事2 ガーデンの再定義について

◆坂本委員長

議事2「ガーデンの再定義」について、事務局より説明をお願いします。

◆事務局

(説明)

◆坂本委員長

ガーデンの再定義に関してですが、「ガーデン」というのは、人工的な空間というイメージがあると思います。加賀市の自然の風土が与える環境の中で、加賀市のガーデンは何であるのか考えていく必要があります。

◆山田委員

「ガーデン」という言葉を人工的なものと切り離して「みずとみどり」という言葉に置き換えて再定義しているのはとても良いと思いました。緑は人工的に作られているものだけではないというのは私も感じておりましたが、一つ気になったこととして、「人々の息遣いが感じられる」という

表現ですが、弱々しい印象を感じます。「息遣い」よりも「活発」に寄せた言葉があると、「活用・管理」という言葉との一致感が増すのと思います。

◆事務局

活動をいかに表現するかを考えた時に、「息遣い」という言葉をテーマとして提案しましたが、もう少し「活発な活動」という意味に寄せた表現ができないか再考したいと思います。

◆辻委員

私は、駅前の休耕田を使って活動しています。市役所からは年に2回、花苗の提供はありますが、基本的にはそれだけでは足りません。公共的なところに植える場合には支給がありますが、一番観光客の方々が目に付く場所である休耕田に対する支給はありません。みんなボランティアで、自分たちで育てた苗を持ち寄って植えています。誰が見ても加賀市はきれいだと思ってもらえる地域にしたいと思っています。皆さんに楽しんでもらおうとするならば、公共地以外の場所についてももっと予算を当てた方がいいと思います。綺麗にするための各地域の方々が望んでいらっしゃると思いますので、どう考えていらっしゃるか行政の考えをお聞きしたいです。

◆事務局

市民の方々に、ガーデンシティの取り組みをご理解いただくために、初期の段階では市が引っ張って進める必要があると考えていますが、市民の方々にこの取り組みが行き渡った際には、それぞれで取り組みを広めていただきたいと考えています。

公共施設での活動に対して支援することはもちろん、民間の土地における活動についてもできるだけ支援していきたいと思っていますが、すべてを対象とすることは難しいので、公共地と民有地で支援の仕方に線を引かせていただきたいと思います。新たな体制ができた際には、市民の方々に広く周知しながら、支援に繋げていきたいと考えています。

◆坂本委員長

活動に対しては、持続可能性を考慮しながら予算を確保して進めていけるかなど、そういったシステムを考えていく必要があると思います。

◆佐藤委員

再定義について、加賀市は歴史もあって自然も豊かですので、思い切ったもので良いと思います。東京の武蔵野では「むさしのガーデン紀行協議会」という名称で活動しており、ガーデンという名前はついていますが、お花の活動だけではありません。武蔵野の地域にある公園や庭園、植物園、玉川上水という歴史的な史跡、国分寺崖線など、6市にまたがっているエリア全体をガーデンと捉え、産官学民で活動しています。昨年、国土交通省のガーデンツーリズム制度に登録され、東京初のガーデンツーリズムとして名を連ねています。

そういったガーデンの考え方は浸透してきていますし、そこに、市民の方々が自分たちで作っている花と緑が加わっていくといいと思います。

また、健康という言葉も良いと思います。「ヘルシーパーク」・「ヘルシーピープル」や「ウェルビーイング」という言葉が最近是世界的なトレンドになっています。緑が豊かで、地域の生態系を考えた自然がある場所こそ、人々は健康になると考えられており、各国でこの考え方に紐付けて、メルボルンやニューヨーク、ヨーロッパ各都市でまちづくりが進められています。ここでいう

「ヘルシー」という言葉には、健全な地域生態系、つまり自然環境が健康なこと、その土台があつての人々の健康、その二つの意味が含まれています。

加賀市には温泉がありますが、こんな健康都市は他にはなく、ヘルシーガーデンシティといつてもいいくらいなので、そこに緑が紐づいてくるような政策にしていけるといいと思います。

また、世界的にはSDGsの話に加え、「ネイチャーポジティブ」という言葉が出てきていますが、それは、都市に自然の多様性を取り戻すという意味です。日本ではまだ入ってきたばかりの概念ですが、加賀市には、ネイチャーポジティブを体現できる環境があると思います。国際都市との歩調を合わせられるポテンシャルを持っているので、海、山、湖に加え、農地や歴史的な文化資源なども「ガーデン」と捉えることが、重要なポイントだと考えます。

既存の緑を生かすという考え方、新しい緑を作る考え方、この二つの考え方をしっかり持って進めていくことが重要だと思います。

◆坂本委員長

「ヘルシーパーク」・「ヘルシーピープル」、「ウェルビーイング」、「ネイチャーポジティブ」など、新しい概念がどんどん生まれているということで、これらもガーデンシティを促進する要素として重要なものだと思います。

◆餘久保オブザーバー

緑を求める動機の部分で、加賀市にお住まいの方と、加賀市の外から訪れる都市部の方とでは感じ方が違うはずです。都市部からの来訪者は、周りの緑が少ないから価値を見出せる方も多いと思いますが、加賀市にお住まいの方は既に周りの緑に包まれていることから緑に価値を感じていない方もいらっしゃると思います。したがって、市民に対する啓発という意味では、外向けとは違うアプローチが必要なのではないのでしょうか。市民に自分ごととして捉えてもらうためには、自分たちが住む地域を外向けに発信していきたいと感じられるような考え方が重要ではないかと思います。資料に記された、「固有の自然環境を活かした」という部分は既に備えており、「市民の暮らし・地域経済に潤いをもたらす」という部分は目標とするところです。また、「人々の息遣いが感じられる」という部分は、一部では活発に起きていますが、まだ全体には行き渡っていないのではないかと思います。それを促進するためには、シビックプライドのような感情を市民に持ってもらうための工夫が必要だと思います。

佐藤委員から紹介のあった「ヘルシーパーク」・「ヘルシーピープル」という考え方は、加賀市がかつて取り組んでいた、自転車利用環境の政策の組み立てにおいても、健康づくりという目標はあったと思いますので、その考え方とも符合する加賀市らしい進め方があるのではないかと思います。

◆稲田オブザーバー

「ガーデン＝みずとみどり」というお話でしたが、シンガポールの都市計画局でも公園や河川等を含めた水と緑に関するプランを進めており、その時の表現が「Blue and Green」でしたので、非常に良い気づきだったと思います。

シンガポールで40年間携わっていたガーデンシティについての記録を皆様に見いただければと思いますが、シンガポールがいかに苦労して本気で作り上げてきたかがわかると思います。行政の方々がこれをやり遂げるとなると、リーダーシップが重要であり、よほどの汗水をかかないと難しいと思います。シンガポールも行政組織は縦割りですが、ガーデンシティのような風景をつくるまちづくりは縦割りの行政では上手くいきません。それを当時の首相であったリークアンユーは見

越し、各行政の部局のトップをテーブルに集め、重要な国家プロジェクトの全てを常にチェックしていました。

まちづくりは基本的に建設計画で作られることが多いので、行政の中で、公のお金を使う計画開発については、内容をチェックする組織をつくるのが現実的な方法だと思います。

また、10ページの宮脇先生の植生図は非常に面白く、専門的な視点から見ると、加賀市にある緑は一部を除いてほとんど人間が関わってきた二次林・三次林であることがわかります。また、砂丘植生から、冬場の季節風がかなりきつい場所であることがわかります。また、地形的に見ると、山が縦方向に入っているのに対して、海岸線は東西のラインになっています。こういった地形的な特性はガーデンシティのベースになると思いますので、これらを考慮しながら全体を考えていくことが重要だと思います。

今回の資料は内容が上手くまとめられていると思いますが、これを実施していくという次の段階が正念場かなと思います。

◆坂本委員長

ガーデンの再定義について、異論はなかったという認識ですが、いくつか委員の意見であった言葉の表現については、もう少し検討していくということをお願いします。

議事3 テーマと基本方針の見直し

◆坂本委員長

議事3「テーマと基本方針の見直し」について、事務局より説明をお願いいたします。

◆事務局

(説明)

◆坂本委員長

議案3「テーマと基本方針の見直し」に関して、ご質問、ご意見ございませんか。

◆佐藤委員

今までの議論を反映させたものになっており、これからに生かせる内容だと思います。言葉としては、「健康」というキーワードを入れたいと思っていましたが、ガーデンの再定義やテーマのキーワードに入っているのでこれでよいと思います。

基本方針については、行政の視点になってしまっているので、市民の視点を入れていただきたいです。公園という言葉が非常によく出てきますが、公園だけではなく、住民の方々が自分の家の周りや、学校や店舗の前、農地などの市民が今使っている場所に花と緑を増やしていく、もしくは既存の緑の質を高めていく、というような暮らしの視点が必要だと思いました。今のプランは官が管理しているところにどう市民に参加してもらうかという考えになってしまっているので、その考え方を大きく転換していただき、市民が身の回りからやっていけるような仕組みにさせていただけると良いと思います。もう一つは、基本方針5にコミュニティづくりとありますが、どう連携していくかも非常に重要です。各エリアのコミュニティづくりとそれらをつなぐ加賀市全体のコミュニティのネットワーク、これらのマネジメントを担う中間支援的な仕組みが必要だと思います。

◆坂本委員長

「市民の暮らし」などのキーワードは入っていますが、まだまだ印象として行政の視点があるようです。

◆佐藤委員

16ページの課題を見ますと、「公園緑地を管理する人材の不足」という課題がありますが、管理ではなくて活用でないかと思います。管理のために費用がなくなってしまったから、ボランティアで管理させるというのは古い考え方です。管理ではなく、公園緑地を「活用」して、どうまちづくりに生かしていくのが大事な視点なので、根本から見直した方がいいと思います。住民の方が、公園を使って楽しみ、活用することによって自分たちの暮らしが豊かになるとわかれば、管理も含めて一緒に公園づくりを考えていただけるようになります。管理の人材不足という理由から始まってしまうと、人は集まってきません。住民の方が公園を活用しやすいようにするには、どうすればよいかという視点から始めることで、公園づくりからまちづくりにつながる活動に発展させていくことができます。

◆事務局

行政が構想をつくると、官の視点で作りがちになってしまいます。このようなご指摘は、市民の目線に立った考え方で見直すことができるのでとても参考になります。こちらに関しては官の視点ではなく、市民あるいは利用者の方の視点に立ったうえで再考するほか、同様に管理という考え方も活用という考え方に変えていくような新たな視点で見直したいと思います。

◆坂本委員長

先ほど、行政のリーダーシップが非常に重要だというご意見があったのですが、同様に民の力による今後の推進力の作り方というものが、アクションプランの非常に重要なポイントになってくると思います。

◆山田委員

14ページのテーマの言葉書きに使われている「いきいき」という言葉は、すごく広く、テーマとしてはいいのかもしれませんが、より一歩新しくなったというイメージを出す言葉として、例えば、佐藤委員がおっしゃっていた、「ウェルビーイング」などの概念を取り入れていてもいいのではないかと思います。そういった言葉にすることでより水と緑と言う言葉に親和性が高まるのではないかと思います。

また、16ページ基本方針5の連携づくりのところに、「市民・事業者・行政」と書かれていますが、市民と行政の間には非営利団体が入っていることが多いです。市民がなにかをやるときは、市民の言葉を集めて団体として行政に提案していきますので、「非営利団体」や「市民活動」という言葉を入れていただくことが非常に重要ではないかと思いました。

緑の担い手がないということは、それはつまり緑に関心がある人が少ないという課題だと思いますので、その人たちにどう緑を好きになっていただくかという無関心層を巻き込んでいくことが重要だと思います。無関心層の取り組みと書くと直接的だと思うのですが、他分野とのコラボレーション、緑の活動をまだ行っていない方々の活動の掛け合わせといったようなことを入れるとよいと思います。今はまだ緑に興味がある人のための基本方針になっていると思います。

◆坂本委員長

最初のテーマのところで、「いきいきと輝く」というテーマに関して、「ウェルビーイング」という言葉がうまく当てはまるかはわかりませんが、もう少し具体性のある言葉にしていくことが必要だと思います。

◆事務局

山田委員のおっしゃっている言葉を取り込んでいくことができれば一番よいと思いますが、テーマに収まりきらないものに関しては、サブタイトルで表現することも視野に入れて、具体的でわかりやすいテーマを考えていきたいと思っています。

◆坂本委員長

テーマのキーワードについては、上位関連計画である緑の基本計画や加賀市総合計画などから抽出したものもあり、整合性もあるため、悩ましいところでもあるかと思いますが、ぜひ、市民にわかりやすい、活動の方向性が見えやすいテーマにして欲しいと思っています。

◆佐藤委員

無関心層をどうガーデンシティ構想に参画していただくかは非常に重要だと思います。育児サークルへのヒアリングがありましたが、その方は「そもそもガーデンシティの取り組みは知らなかったし、お花を植える活動だとあんまり興味がない」と答えています。花や緑の活動はすごく好きな方は好きだけど、そうでない方にとっては、あればいいけれど、自分たちがやるというのは大変そうだし面倒臭いと感じてしまうと思います。

私たちの活動でも、無関心層を取り入れていくということに力を入れています。実は花や緑が嫌いという方はいなくて、誰でも気軽に始められるきっかけがあれば、どんどん活動に入ってくれるようになります。例えば、通りすがりでも、親子でも、その場で参加できる「ちょいボラ」体験プログラムなどは、大人気です。子育て世代の方々からは、子どもに土いじりや自然に触れさせる場がなかなかなかったのが嬉しいという声をいただきます。ガーデンが媒介のきっかけとなって、子どもたちの成長や、お父さん、お母さんの交流に繋げることができます。私たちは、花そのものを植えることが目的というよりも、それらを通して人々が交流する機会をつくる、まちづくりにつなげていく、それらを大きな目的と考えています。そういった視点に立って本構想を検討していくことで、取り組みの内容が変わってくると思いますし、成果もあがっていくはずです。

また今回の全体のコンセプトは非常にまとまっていると思いますが、次世代に、未来につなぐという視点がまだ足りないと感じています。消滅可能性都市からの脱却、UターンやIターンの促進、住み続けたい加賀市にしていくためには、地域教育や人材育成という視点がより必要となっていくはずで、持続可能なまちづくりという大きな視点において、ガーデンシティ構想はとても重要な施策となります。以上に述べたような視点を盛り込んでいただき、具体的な事業やその実現のための運営体制を検討していけるとよいと思います。

◆稲田オブザーバー

5、10年先、社会的な変化との整合性をとっていくことが大事ですが、日本の行政の場合、25年前に決めたことをそのまま実現させる傾向があり、軋轢が生まれてしまいます。シンガポールでは、「プラグマティカル」といって現実的に進めるということを大事にしています。構想は、生き物の成長のように、内容も変化していくものとして、柔軟に考えていけるとよいと思います。シンガポールでは、都市そのものを一つの生き物という捉え方をしており、パリでも都市を都市計画

で決められたものではなく、生き物と捉えていました。加賀市のガーデンシティも、成長し、育成していく生き物であると思います。

◆坂本委員長

大変、刺激的なキーワードをいただいたと思います。まだまだご意見をいただきたいところですが、今日はこれで幕引きとさせていただきます。これからアクションプランといった非常に重要な部分に差し掛かっていきますので、いろいろな形でフィードバックする必要があると思います。今日いただいた貴重なご意見に関しても、振り返り検討したいと思いますので、今回は、この方針で次のステップに進んでいくことに了承していただきたいと思います。また、変更点に関しては、皆様に確認していただくほか、場合によっては議長の私に一任していただく形で進めたいと思います。がよろしいでしょうか。

ご異論なければそういった形で進めたいと思います。

最後に、事務局より、今後の予定をお願いいたします。

◆事務局

(説明)

◆坂本委員長

ご意見ご質問はございませんか。

それでは、こちらで本日の進行を事務局の方にお戻しいたします。

◆事務局

坂本委員長ありがとうございました。最後に閉会にあたりまして、建設部長 嶽野 一義がご挨拶申し上げます。

◆嶽野建設部長

第1回に引き続きまして、本日も貴重なご意見、アドバイスを承りまして誠にありがとうございます。先ほど事務局からご説明させていただきましたが、本プラン策定スケジュールは当初の予定では、本年度中に策定し、来年4月には新たなプランでスタートするつもりでございました。しかし、第1回検討委員会から、事務局において再考したところ、そのスケジュールでは、委員のみなさまから十分なご意見・アドバイスをいただけないのではないかと判断したところでございます。委員のみなさま方には、ご負担をおかけすることとなり誠に恐縮ではございますが、来年度に跨ってお力添えを賜りますようお願い申し上げ、簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

◆事務局

これをもちまして、第2回第2次加賀市ガーデンシティ構想推進プラン検討委員会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。